



厳しい残暑が続く、子どもたちにも夏の疲れが出てくる頃ですね。水分補給は大切ですが、冷たい飲み物を摂りすぎると食欲不振や胃腸の不調を招いてしまうこともあります。

食欲不振により体力が落ちると免疫力も低下してしまい、病気にもかかりやすくなってしまいますので、冷たい飲み物の摂り過ぎに注意しながら、規則正しい生活リズムを心がけて健康に過ごしましょう。



8月の利用状況

- ・上気道炎 1名
- ・気管支炎 2名

R2年度8月の利用者の病名は、「上気道炎」と「気管支炎」でした。

症状は、発熱のほかに咳・鼻水が目立ちました。“咳や鼻水だけで熱がないから”と見過ごすとかえって症状が長引いてしまうこともありますので、早めの受診が安心です。

楽しく 鼻のかみ方をマスターしよう！



- 1 ティッシュを小さくちぎってテーブルの上に置きます。
 - 2 1を口で吹き飛ばして見せます。こどもと一緒にやってみましょう。
 - 3 片方の鼻の穴を指でふさいで、鼻息だけでティッシュを吹き飛ばしてみせる。飛ばしっこ競争をしてみましょう！
- ※ 口から息を吸い込み、しっかりと閉じることを教えましょう。

鼻水をすすったり、中途半端にかんで鼻水が残ると鼻腔内で細菌やウイルスが増え、気管支炎や肺炎につながる場合があります。

また、鼻水をすすることによって細菌やウイルスが含まれている鼻水が副鼻腔に達し、副鼻腔炎を起こしたり、耳に達し中耳炎を起こす場合があります。

感染症流行期に備えて、親子で「鼻かみマスター」をめざしましょう！

RSウイルス

乳児または若年の幼児にとって特に重症化する可能性のある感染症です。生後1か月未満でも感染する可能性があり、無呼吸の原因になることもあります。

症状

- ・発熱、咳、鼻水が主症状

受診の目安

- ・息がゼイゼイして、呼吸がくるしそうになる
- ・咳で夜中に何回も起きる
- ・熱が下がっても症状が改善されない
- ・咳き込んで、嘔吐してしまう

※悪化する時には発熱はあまり関係ありません

ヘルパンギーナ

乳幼児を中心に夏期に流行する、いわゆる夏風邪の代表的疾患です。

症状

- ・発熱、口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹、咽頭痛など

対応

- ・特異的な治療法はなく、鎮痛解熱薬で痛みを和らげ、刺激の少ないのどごしのよい飲み物等を与えるようにしましょう。

Q:高熱の時は、預かってもらえないのですか？

A:高熱があっても症状が比較的落ち着いていて、水分やゼリー、食事が摂れればお預かりしています。症状の変化に合わせて、水分補給やおやつ・食事のタイミングなど考慮し、保育を行っています。看護師が適宜お預かりした解熱剤を使用し、水分補給や食事が摂れ、お昼寝が十分できるように見守っています。



市ホームページから **病児・病後児保育** **検索**

【予約・問い合わせ】病児・病後児保育専用施設 22-1121

※ 時間外・利用者がなく閉室する際は、中井保育園へ転送されます。